

「考古学と国際貢献」2025 年度シンポジウム
Symposium 2025 'Archaeology and International Contribution'

地域社会と文化遺産 Local Communities and Cultural Heritage

2025 年 11 月 24 日（月・祝） 東京文化財研究所

2025 年 11 月 30 日（日） 京都芸術大学

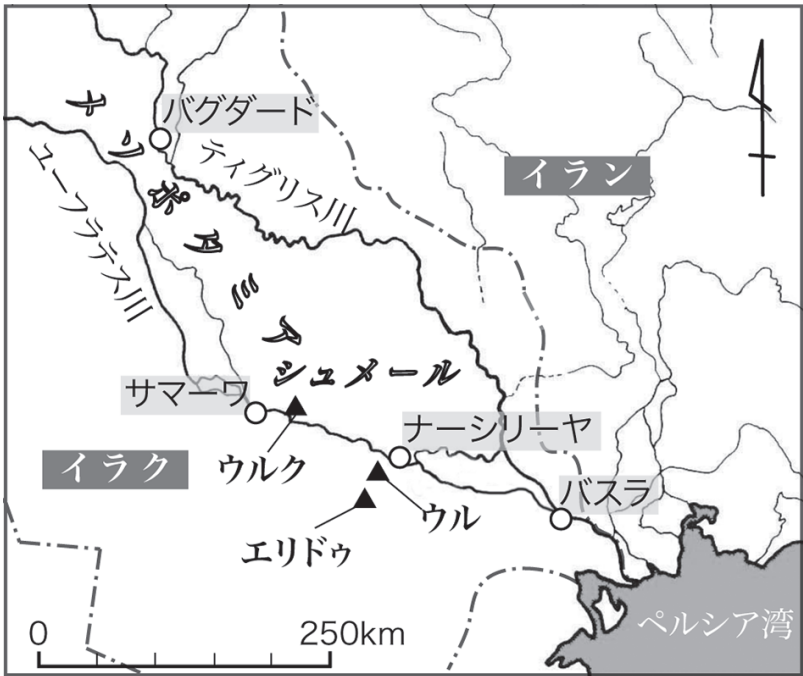


【主催】

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所
特定非営利活動法人メソポタミア考古学教育研究所
京都芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター

【後援】

駐日イラク共和国大使館
独立行政法人国際協力機構（JICA）



イラクの主要都市と遺跡 ©Tatsundo KOIZUMI

	イラク南部	イラク北部
10 万年前		ムステリアン
4 万年前		パラドスティアン
2 万年前		ザルジアン
前 9000 年		先土器新石器時代
前 8000 年		土器新石器時代
前 7000 年		原ハッスーナ
前 6000 年	ウバイド 0	ハラフ
	ウバイド 1	
	ウバイド 2	
	ウバイド 3	ウバイド
前 5000 年	ウバイド 4	
		ガウラ
	(ウバイド 5)	
前 4000 年	ウルク前期	ウルク中期
前 3300 年		ウルク後期
前 3000 年	ジェムデト・ナスル	ニネヴェ V
	初期王朝 I	
前 2500 年	初期王朝 II	
	初期王朝 III	
	アッカド	
	ウル第三王朝	
前 2000 年	イシン・ラルサ	古アッシリア
	古巴ビロニア	ミタンニ
前 1500 年	カッシート	中アッシリア
	中期バビロニア	
前 1000 年	新アッシリア	
前 500 年	アケメネス朝ペルシア	
	セレウコス朝	
	パルティア	
西暦紀元		サーサーン朝
後 500 年		

イラク考古学の編年表
(『西アジア考古学講義ノート』参照)

『地域社会と文化遺産』
"Local Communities and Cultural Heritage"

目次 Contents

開催にあたって	2
趣旨説明	3
発表要旨 東京会場	5 ～ 15
発表要旨 京都会場	17 ～ 25
Foreword	28
Introuction	29
Abstract for Tokyo Symposium	31 ～ 41
Abstract for Kyoto Symposium	43 ～ 51

開催にあたって

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所では「考古学と国際貢献」の表題のもとに、西アジア地域を中心に各国の文化遺産や考古遺跡に関する調査・研究成果の活発な交流と、文化遺産保護の国際協働を推進すべくシンポジウムを主催してまいりました。このたびは、メソポタミア文明が栄華を誇った地であるイラクを対象国といたします。

イラクでは、2003 年にイラク戦争の騒乱に乗じて地域住民らによって首都バグダードのイラク国立博物館の収蔵品が略奪されました。略奪された 1 万 5 千点もの資料の多くが違法に国外流出し、その約半数はいまだに返還されていません。世界的な報道となったこの事件は、図らずも、当地の地域社会における文化遺産や博物館資料に対する意識を露見させることになりました。

このようなイラクにおける文化遺産保護の危機に際して、東京文化財研究所では、ユネスコ文化遺産保存日本信託基金の事業の一環として、2004 年度～2010 年度まで毎年イラク国立博物館の保存修復専門家などを日本に招聘し、保存修復の研修を実施し、機材提供も行いました。その後も、2019 年に「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるために―歴史教育を通じた戦後イラクの復興への挑戦」、2022 年に「メソポタミアの水と人―文化遺産から暮らしを見直す―」と題した国際シンポジウムを特定非営利活動法人メソポタミア考古学教育研究所（JIAEM）と共催するなど、長年にわたってイラクの文化遺産保護にかかる交流を続けて参りました。

略奪被害に遭ったイラク国立博物館は 2015 年に全面的に再開されました。そして現在、イラク現地には複数の外国調査隊が復帰し、新たな発掘調査や史跡整備も進められています。さらには、地域住民に文化遺産の重要性を喚起し、地域と連携した積極的な活用が求められています。

そこで本年は、特定非営利活動法人メソポタミア考古学教育研究所（JIAEM）、ならびに学校法人瓜生山学園京都芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センターと共に、「地域社会と文化遺産」をコアテーマに東京と京都の 2 会場でシンポジウムを開催することといたしました。イラクからは南部・ズィー・カール県より 3 名の専門家をお迎えし、日本の史跡や専門機関を視察いただきます。さらに、日本の好例を知っていただくため、文化庁やユニークな取り組みを続ける地方自治体、複数の世界遺産を抱える地方自治体、地域連携による文化財保護を实践する大学の専門家らにご講演いただきます。

様々な土地で文化遺産が戦禍に見舞われる昨今ではありますが、本シンポジウムをつうじて、文化遺産の保護がどのように地域社会と連携していくことができるか、そしてその効果は地域社会にどのような影響をもたらすのか、共に考える機会となりましたら幸いです。

2025 年 11 月 24 日

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所
文化遺産国際協力センター 保存計画研究室 室長

安倍 雅史

趣旨説明

このたび、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所ならびに学校法人瓜生山学園京都芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センターとともに、国際シンポジウム「地域社会と文化遺産」を開催することとなりました。東京文化財研究所と共同開催してきた2回の事業の成果を踏まえて、今回は世界最古の都市文明の遺産が豊富に残る南イラク（シュメール地方）からイラク人専門家3名を招聘いたします。

本シンポジウムの目的は、南イラクの文化遺産の最新情報や地域住民の意識について理解し、日本の史跡等の保護と活用に関する取り組み状況を概観し、その地域社会を巻き込んだ文化遺産の活用例の成果と課題を共有することで、今後の南イラクにおける文化遺産の恒常的な保護と活用に資する展望を描くことにあります。同時に、史跡保存等を担う人材の育成課題を把握しつつ、南イラクの中核的博物館と連携することで、文化遺産を活用した地域住民との協働関係の構築を模索します。

本シンポジウムは東京と京都で実施し、それぞれテーマを設定しています。東京会場のテーマは「南イラク（シュメール）の未来像を考える」とし、前駐日イラク共和国臨時代理大使閣下が南イラクの文化遺産の普遍的価値、文化遺産保護における地域社会の重要性、日本との協力の必要性について講演します。つぎに、日本の専門家が、日本の文化遺産行政の課題を整理しつつ文化財の「公共化（民主化）と価値共創」を提言し、過疎化・高齢化が進む地域に所在する考古民俗館の所蔵する石棒を核とした住民参加型のデジタルアーカイブ活動の実践例を紹介します。

同時に、イラクの専門家は、南イラクで近年再開している外国隊の考古学調査に関連して、ズィー・カール県の考古局による遺跡保護（密輸・破壊防止）、地域住民への文化遺産の重要性の周知、発掘作業・警備等の雇用創出の取り組みについて、また同県ナーシリーヤ文明博物館によるシュメールの文化伝統を表徴する芸術作品の展示、若い世代に過去とのつながりを意識させる講演会等の実施、文化・観光の拠点形成、地域社会・文化機関・国際組織との協力に基づく多角的な協働についても報告します。

一方、京都会場のテーマは「京都・奈良の事例をふまえて」とし、京都芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター長が平等院庭園の修理・復元が周辺の自然環境、文化、歴史を大切にする地域社会全体のまちづくりを活性化させた成果について講演します。そして、各専門家が、同センターと弊所の共同によるWeb-GISを活用した日本・イラクの若い世代が中心となる「学生・市民参画型」のメソポタミア遺跡マッピングプロジェクトの成果と展望について報告し、奈良県による世界遺産の次世代継承を目的とする多様な取り組みの経緯と課題について紹介します。さらに、京都・奈良の史跡等の保護と活用に関する現状について、スタディーツアーを通して得られた知見も共有いたします。

本シンポジウムを通して、「歴史が始まる」シュメール地方の文化遺産の保護とその地域住民の文化遺産に対する効果的な教育に向けた知恵を絞り、地域社会が主体となる文化遺産の活用により、いかにして当地の若い世代を育成していけるのかという眺望を得られればと願っております。

2025 年 11 月 24 日

特定非営利活動法人 メソポタミア考古学教育研究所
代表理事 小泉 龍人



TOKYO

「考古学と国際貢献」 2025 年度シンポジウム

Symposium 2025 “Archaeology and International Contribution”

東京文化財研究所
Tokyo National Research Institute for Cultural Properties

メソポタミア考古学教育研究所
Japanese-Iraqi Institute for
Archaeological Education of Mesopotamia

主催：独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所

特定非営利活動法人メソポタミア考古学教育研究所

後援：駐日イラク共和国大使館

独立行政法人国際協力機構（JICA）

地域社会と文化遺産 —南イラク（シュメール）の未来像を考える—

Local Communities and Cultural Heritage : Drawing the Future of the Sumer Region in Southern Iraq

日時：2025 年 11 月 24 日（月・祝）13：00～17：40（開場 12：30）

会場：東京文化財研究所 セミナー室（対面のみ）

言語：日本語・アラビア語（逐次通訳あり）

■プログラム■

- | | | | |
|-------|--------|----------------------------------|----------------------|
| 13：00 | 開会挨拶 | 東京文化財研究所 | 安倍雅史 |
| 13：10 | 趣旨説明 | メソポタミア考古学教育研究所 | 小泉龍人 |
| 13：30 | 基調講演 | 前駐日イラク共和国臨時代理大使 | ペワン・ザウィタイ |
| 14：00 | 発表 1 | 文化庁博物館振興室 | 中尾智行 |
| | | 「文化遺産における公共化と価値共創—考古学と博物館のこれから—」 | |
| 14：25 | 発表 2 | 飛騨市教育委員会 | 三好清超 |
| | | 「博物館資料「石棒」を未来へ伝える」 | |
| | <休憩> | | |
| 15：00 | 発表 3 | ズィー・カール県考古・文化遺産局 | アーメル・アブドゥルラッザーク・アティヤ |
| | | 「文化遺産の宝庫ズィー・カール」 | |
| 15：50 | 発表 4 | ナーシリーヤ博物館 | ウィダード・ハマド・アブシャヒル |
| | | 「地域社会の意識改革に向けたナーシリーヤ博物館の役割」 | |
| | <休憩> | | |
| 16：50 | クロストーク | | |
| 17：30 | 閉会挨拶 | 小泉龍人 | |

通訳：イブラ・ワ・ハイト代表 山崎やよい

司会：東京文化財研究所 山田綾乃



「考古学と国際貢献」2025 年度シンポジウム
『地域社会と文化遺産』要旨集
Proceedings of the "Local Communities and Cultural Heritage"
Symposium 2025 'Archaeology and International Contribution'

2025 年 11 月
November 2025

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 文化遺産国際協力センター
特定非営利活動法人メソポタミア考古学教育研究所
京都芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター

Tokyo National Research Institute for Cultural Properties
Japanese-Iraqi Institute for Archaeological Education of Mesopotamia
Research Center for Japanese Garden Art and Historical Heritage, Kyoto University of the Arts

Symposium 2025 'Archaeology and International Contribution'
「考古学と国際貢献」2025 年度シンポジウム

Local Communities and Cultural Heritage 地域社会と文化遺産

24th November 2025 (Mon.) Tokyo National Research Institute for Cultural Properties

30th November 2025 (Sun.) Kyoto University of the Arts



【Organizer】

Tokyo National Research Institute for Cultural Properties
Japanese-Iraqi Institute for Archaeological Education of Mesopotamia
Research Center for Japanese Garden Art and Historical Heritage, Kyoto University of the Arts

【Support】

Embassy of the Republic of Iraq in Tokyo
Japan International Cooperation Agency